

多言語対応協議会交通分科会 取組方針

- ターミナル駅等では、分かりやすい案内表記を実現するため、各主体が連携し、各主体間の垣根を越えた取組を進めていく。
- ケーススタディとして、多様な交通機関が乗り入れる新宿駅を対象として、より多くの関係者が参画した会議体を設置し、さらに議論を進めていく。
- 新宿駅の取組も参考にしつつ、各主体が相互に協力・連携体制を構築し、他の駅等にも広げていく。

新宿駅の取組

案内サインの改善

■2017年8月から進めていた整備が完了

※日英二カ国語表記



Keio Shinsen Line

Keio New Line

Keio New Line

吊下げサイン

エリアマップ

エレベータサイン



他のターミナル駅の取組

渋谷駅

■エリアマネジメント協議会が中心となり、駅周辺再開発に合わせて案内サインの整備を実施（2018年4月～）



池袋駅

■豊島区が中心となり、案内サインの整備を実施（2018年11月～）



日暮里駅

■荒川区が中心となり、案内サイン整備を実施（2019年3月～）
京成線の乗り換え案内には空港のピクトグラムを追加



引き続き、品川駅、浜松町駅、東京駅、八王子駅、立川駅でも取組を促進

ターミナルマップの配布

日英中韓の四カ国語表記のマップを作成・配布
日英版・2017年9月～
中韓版・2018年8月～

ICTを活用した案内誘導サービス

■屋内測位情報を活用した案内誘導の取組
・屋内測位技術を活用した民間のアプリ開発を支援
■11月20～22日に新宿駅西口において、「屋内測位技術の精度比較」、「駅案内ルートの表示」の実証デモを実施



実証デモの様子



※日英二カ国語表記（端末画面）

